

自己評価報告書

平成23年5月9日現在

機関番号：32517

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20730346

研究課題名（和文） 女性の生活の変化－高齢期の準備とその後の生活スタイル－

研究課題名（英文） A change in the woman' s life.
Preparing for life in old age.研究代表者 川口 一美 (KAWAGUCHI KAZUMI)
聖徳大学・人文学部・准教授

研究者番号：00352675

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：文化・宗教・社会意識

1. 研究計画の概要

「中高年がリタイア後どのように過ごすか」は、現在その該当世代である、団塊の世代だけに限らず重要なテーマである。その中でも女性は男性と異なり、定年退職という区切りが無いまま、その時期に入っていくケースも少なくない。

そこで、前後の世代の人々と異なる集団として取り上げられる団塊の世代のとりわけ女性を中心に、老後に向けどんな準備をいつ頃からしたのか、また、この高齢社会と言われる現代を生きていく中で、どんな準備が必要（どんな準備をもっとすれば良かったか）かを明らかにする。その上で、その先にある全世界的にも類をみない今後の超高齢社会に向けての個々人や社会の対策を考えたい。

2. 研究の進捗状況

本研究は、4年計画で実施をする予定である。

1年目は、現状把握として団塊の世代についての理解を深め、中高年の生きがいなどについて文献探索を行った。

2年目は、（1年の産休にて年度変更）量的調査を実施し、実際の中高年女性が（男性と異なり）どのような状況にあるかを確認した。

3年目（平成23年度）は、質的調査を行う。昨年 の 量的調査で得られたことをより掘り下げ、老後についての具体的な準備内容や時期等について確認をしていく。

4年目は、量的調査、質的調査の結果を総合的に分析判断し、対象者となる中高年女性に示していく。また、今後の社会や中高年以前の女性にもフィードバックする。

1年目の文献探索において、中高年の生き

方についての研究調査は少ないということが分かり（介護や健康等の調査は多いが）、とりわけ女性については、中高年以降の生き方に関しての調査はあまり見つけられなかった。その反面、若い女性に対して、結婚観やどのように仕事（家庭）を作っていくかという調査は多かった。その結果、結婚前後の生活については、自分で設計するという姿勢が見て取れるが老後については、デザインする（できる）という捉え方がまだうすいのではないかと考えた。

2年目の量的調査では、男性と異なり、やはり老後を具体的に意識するきっかけは（自分の）定年というわけではなく、親や自分または配偶者の何らかの要因によってリタイア後の生活をイメージ作ったり、準備・決定しているケースが多い。また、子どもの成長（巣立ち）が老後の計画を具体的に作るきっかけになることも分かった。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）2年目の調査については産休で1年間保留（中断）をしたが、復帰後再開しているため。

ただ、量的調査の考察等については今後も引き続き行う必要がある。

4. 今後の研究の推進方策

今後の研究については、以下のように行っていきたい。

3年目の平成23年度については、質的調査（インタビュー）を行う。これまで築いてきた被調査者との関係性を壊さないよう、また、ここへの配慮をしながら具体的なリタイア後の生活デザインについて聞き取ってい

きたい。(その際2年目の量的調査の結果についての考察をふまえ、きっかけ、準備内容等を重点的に確認していく。)

4年目については今までの調査を基に、中高年女性がどのように高齢期の生活をデザインしているかを明らかにし、今後の高齢期予備軍(高齢期以前の女性)が老後を考えるきっかけとしたい。例えば中年層に対して、もしくは若年層に対して等層によって、意識することや準備するポイント等を明らかにできれば、フィードバックしやすいと考える。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

川口一美 中高年女性の生活実態に関する研究—より良い今後の人生のためのステップ—、聖徳大学研究紀要、第21号、1-6、2011年、査読有

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]